

館報

ついに
800号!



12月号

No. 800

令和4年
(2022年)



(本号は800号特別編成でお送りいたします)

おかげさまで800号

昭和25年(1950年)8月に『館報やまがた』第1号が発行されてから72年。
おかげさまで、創刊800号を迎えることができました。いつもご愛読いただき、
ありがとうございます。

11月23日(水・祝)、トレーニングセンターにて、行われた『航空スポーツ教室』
では参加した皆さんにご協力いただき、『800』の人文字を作成し、熱気球から撮
影しました。空に向かって手を振っている皆さんの姿。『館報やまがた』が、この
楽しそうな表情を末永くお届けできるよう、編集部一同願っています。

11月23日(水・祝)、トレーニングセンターにて、『航空スポーツ教室』が行われました。この企画は山形小学校の4～6年生児童を対象に、チャレンジ講座の特別編として山形村教育委員会が一般財団法人日本航空協会が行っている『スカイ・キッズ・プログラム』の学習・体験コースに則って開催しました。全国で50回近く開催されているプログラムですが、長野県内では初めてとなりました。実は3年前から企画されていましたが、コロナ禍により延期され、ようやく実施できました。

当日は雨雲に覆われ、熱気球の飛行が危ぶまれましたが、関係者の熱意が伝わったのか、熱気球の体験搭乗が終わるまで天候も持ちこたえ、約30人の参加児童が地上約20mの空からの眺めや浮上した感覚などを楽しみました。搭乗後には、熱気球を飛ばしていただいた『佐久熱気球クラブ』のご厚意で球皮を畳んで収納するところも体験させてもらい、グラウンドには参加した児童たちの歓声が響き渡っていました。

その後、パラグライダー教室と模型飛行機教室に分かれ、座学と実技を交えながら、空への親しみや飛行機などが飛ぶ仕組みなどを学びました。

チャレンジ講座特別企画
航空スポーツ教室



『北斗の拳』のキャラクターがデザインされた熱気球(©武論尊 原哲夫/コアミックス1983)

模型飛行機教室
講師：和田光信さん(こども模型飛行機教室全国推進委員会)



(座学の様子)
`揚力`が重要
です。



慎重に
取り付けてます。



さあ
飛んでけ～!

参加した児童たちの感想

5年 荒井 龍斗さん
作るとき、翼を接着剤で付けるのが難しかった。
4年 荻上 晴大さん
飛ばすとき、ゴムを200回巻いてしっかり方向を定めないとうまく飛ばないので大変だった。

パラグライダー教室
講師：長野県ハング・パラグライディング連盟の皆さん



みんな
息を合わせて
せ～の



あ～浮いてる～/



/ 体育館の中で飛べた～ \

参加した児童たちの感想

6年 佐野 銀土さん
パラグライダーは体が浮いて楽しかった。
4年 増田 稀乃花さん
パラグライダーは最初は飛べなかったけど、次第に飛べて楽しかった。本当に飛んでみたい。

子どもたちは講師の説明に耳を傾け、目で見て、身体で体験し、夢中になりながら五感をフルに活用して学ぶことができました。今回の『航空スポーツ教室』に参加したことで、子どもたちは空への関心を深め、経験を今後の学びに活かすことができるのではないのでしょうか。

コロナ禍により、行動の制限や行事中止の影響を受け、体験を通して学ぶ場が少なくなってしまった近年。今後も、学校だけでは学ぶことができないような「学びの場」が多く催されることを期待します。



村内ボランティアとして協力いただいた麻和博さん(下竹田※写真左)と、スポーツ推進委員会の皆さん

図書館からのお知らせ

*年末年始休館のお知らせ
12月29日(木)～1月3日(火)まで、
年末年始休館です。
ご不便をおかけしますが、
よろしくお願いいたします。

*ちくちくクラブ
「カード織りのしおり作り」開催
カードを回転させると連続模様が
現れるユニークな手法での手織り
体験をします。
日時：1月29日(日)
午前9時30分～午前11時30分
場所：トレーニングセンター
めばえの部屋
定員：小学生以上 10人
お問い合わせ・申し込み
山形村図書館 ☎0263-98-3155

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館へ

BOOK No.61
編集＝山形村図書館

秋の図書館ワークショップ
「じぶん印のマイ本箱」できたよ！

12月4日(日)にトレーニングセン
ターふるさと大ホールにて、マイ
本箱を作りました。山形村出身の
木工作家、吉沢さやかさんを講師
に招き、小学生以上の10組が本箱
づくりにチャレンジしました。

やすりで根気強く気長に面を取
り、それから本体の組み立て、木
ねじの上から丸棒を差し込むダボ
処理というワンランク上の仕上げ方
法を教えてくださいいただき、緊張しな
がらのこぎりを当てました。

それぞれの
本箱に焼きペ
ンで自分の
マークを入
ると、作り手
の個性が光つ
た味わい深い
作品が完成。



でき栄えにご
満悦の参加者
でした。

完成した本
箱には、それ
ぞれが図書館
で選んだお気
に入りの本を
並べ、「○○

の本箱」と命名し、図書館に展示し
ました。本箱の本もそれぞれ個性
的、魅力的な本が並びました。



本の扉を開けて
セカンドブックプレゼント

11月24日(木)、小学校の読書週間
に合わせて、1年生にセカンドブッ
クをプレゼントしました。

生後7か月の赤ちゃんに本を贈
るファーストブックに続く第2弾
の企画です。

子どもたちは15冊のリストの中
から自分で選んだ本を手にしまし
た。

「本って、どこでもドアなんだよ」

「えー！ー!!!」

「ドアを開け
ると、電車や
飛行機に乗ら
なくても、世
界中を旅でき
るし、日本だ
けじゃなくて、
外国の友だち



や、もしかしたら妖怪や宇宙人に
だつて会えるよ」。司書とのやりと
りに目をキラキラさせてくれる子
どもたち。セカンドブックの事業
名「ポップステップジャンプ」のよう
に、本の世界に大きくジャンプし
てくれることを期待しています。

秋の夜長に物語体験

ナイトライブラリーin図書館

11月17日(木)・22日(火)の2夜にわ
たりナイトラ
イブラリーが
開催されまし
た。

村内で活動
する「おはな
しの会」の皆
さんによる秋
の夜長を楽し
む企画で、今年で11年目を迎える
人気イベントです。



20代から70代の会員が、読み聞
かせ、紙芝居、語り、朗読、落語
と多彩な物語を繰り広げ、2夜で
延べ44人がその世界を堪能しまし
た。

図書館閉館後の19時15分から1
時間弱は別世界に迷い込んだよう
な独特の空間になります。

「雰囲気のある夜の図書館で物
語を聴く時間はとても贅沢に感じ
る」と参加者から感想を寄せてくれ
ました。

BOOK 61 新着本

おすすめ新着本紹介

『転ばぬ先の体幹バランス』

木場克己(NHK出版)

段差とも言えない
カーペットにつまず
く。「まさかや〜」の
あなた。転倒予防の
かなめは「体幹」です。



『百人一首解剖図鑑』

谷知子(エクスナレッジ)

誰もが知る日本の
ロングセラー歌集の
魅力を徹底解剖。
歌に込められた思いをイラスト
で解説しています。



『小学生のサッカー上達のコツ55』

鈴木慎(メイツ出版)

全日本優勝経験を
持つ地域のクラブが、
上達のコツを公開し
ました。動画も視聴できます。



『赤い鉄橋を渡っていくよ』

岡田光司(文研出版)

上田電鉄別所線の
赤い鉄橋は地元のシ
ンボル。2019年
の台風で橋が崩落し
た鉄橋の復旧物語。



新着DVD

『護られなかった者たちへ』

『インディ・ジョーンズ』

『赤毛のアン』てつどう大好き』ほか

感動! 挑戦! 2022年を振り返る

2022年も残すところあと少し。この1年も健康に留意しながら、家族のため、自分のためにと頑張ってきた皆さん、本当にお疲れ様でした。

今年もいろいろなことがありましたが、皆さんはどうだったでしょうか？

7名の方に振り返っていただきました。

ひびきとの再会



中村 大地さん
(上大池)

いつまで続くのか。コロナ禍になり早3年が経ち、以前の生活も忘れてしまいそうです。多くの友人と会えなくなり、忙しい毎日を繰り返すだけでしたが、6月頃に高校時代の友人から入籍の報告と結婚式の誘いの連絡をもらいました。幸いコロナ感染の波も少し落ち着いた時期だったので参列させてもらい、高校卒業以来となった友人に会うことができ、楽しい時間を過ごせました。他にも数年前に関東へ転勤してしまつた仕事関係で仲良くしていた方から久しぶりに仕事でこちらへ来ると連絡をもらい、前職の同期など、その方と仲良くしていた数人で集まり食事をするのもできたりと、少しずつコロナの終息に向かっているのか？と実感できることも増えてきました。

正直まだはつきりとした出口は見えませんが、早く気兼ねなく生活が送れるように願つて1年の振り返りとさせていただきます。

目指せ！漢検1級



榎沼 龍さん
(中大池)

ぼくは、今年から漢字検定を受け始めました。5級から始めました。5級は6年生ぐらいの漢字でしたが、1ヶ月ぐらいで合格しました。4級も受けました。4級も結構難しかったです。3級も受けました。3級もたくさん知らない字があつて本当でできるか心配でした。でも、試験では漢字がスラスラ出てきて、5問くらい間違えたけど合格できました。

今は準2級に挑戦中です。あまり、身近で見ない漢字もたくさんありますが、毎日コツコツとやつて勉強中です。5〜3級まではパソコンで試験をやつていたけど、準2級はパソコンじゃなくて、たくさん人のいる会場でやるつもりです。準2級は難しいですが、できるだけ高い点を取つて、一発合格したいです。

ワンダブルライフ



中川 ゆみさん
(小坂)

・ぼん太♂典型的な柴犬。気分屋でマイペース、ひとりを好む。柴犬は主人に忠実というものが正しい。キレイ好きで、トイレは家の中ではしないので、悪天候の中、外に連れ出さねばならない。

・うめこ♀柴犬であることを疑つてしまうほど人間が好きで、誰かに遊んでもらうことを好む、かまつてちゃん。家の中では元気に走り回るが、リードを付けると一歩も歩かない。仕方がないので、庭にドッグランを設けて遊ばせることにした。ワンソックが得意なぼん太の脇をせわしなく動き回るうめこ。2匹の姿に息子たちは「トムとジェリーのようなだ」と笑う。対象的な2匹の犬との生活は楽しい。ワンダブルならぬワンダブル。毎日である。

ピバ・ワンダブルライフ！
祝・館報800号達成！
おめでとーございます。

2022年

今年を振り返つて

- 1月・コロナ禍が3年目に突入、長野県含む34都道府県に『まん延防止等重点措置』発令
 - 2月・北京冬季五輪、杉本幸祐選手(上竹田)フリースタイルスキー男子モーグル決勝進出
 - 4月・県市町村対抗駅伝(一般)『村の部』1位
 - ・成人年齢を18歳に引き下げる改正民法施行
 - 6月・83歳の堀江謙一さん、ヨットで太平洋横断に成功
 - 7月・安倍晋三元首相が選挙応援演説中に銃撃され逝去
 - 8月・『はたちの集い(成人式)』3年ぶりに開催
 - ・長野県知事選挙で阿部守一現職4期目当選
 - 9月・長野県アマチュアゴルフ選手権、上條五太さん(上竹田)初優勝
 - 10月・山形小学校花園委員会が花壇コンクール優秀賞受賞
 - ・村民運動会4年連続中止
 - ・モルック大会開催
 - ・円安更新(1ドル1150円台)
 - 11月・皆既月食と惑星食が重なる、1580年以來
 - 12月・サッカーW杯カタール大会独・スペイン破り決勝トーナメント進出
 - ・わくわくチケット第2弾スタート
 - ・今年の漢字が『戦』に決まる
- *今年の節目
沖縄が本土復帰50年
野球伝来150年

学生から社会人になって



水野 竜也さん
(下大池)

今年は、学生から社会人になり、変化が多く、とても忙しくも充実した1年でした。私は、石川県の金沢工業大学で6年間機械工学を学び、地元企業にUターン就職しました。今年1年を振り返ると、論文を書き、研究発表を終え、就職し、研修の毎日でした。仕事を通して、学生との一番の違いは責任の大きさと感じました。自分自身の行動が、会社の信頼・印象に直結することを強く実感し、一つひとつの責任をもって毎日研修に励んでいます。

そんな変化の多い毎日ですが、家族との晩酌が楽しみで心の支えとなっています。まだまだ社会人として未熟ですが、早く一人前の技術者となるよう精進していきたいです。

コロナ禍の終わりが見えないうちで不安も多くありますが、再び生まれ育った故郷で生活できることを、とても嬉しく思います。

笑って過ごせた年



小野 さゆりさん
(上竹田)

4月に義母、7月に実母を相次いで送った昨年に比べ、今年は笑って過ごせた年でした。

春に初孫「風架」が誕生し、秋にはコロナ禍で3年延びていた娘の結婚式もできました。孫の存在が大きく、ひな壇に孫と娘夫婦3人が並んで、派手さはないのですが、素敵な孫と娘夫婦です。家族全員で準備し協力して作り上げた式だったと思っています。

家業のスイカ栽培は、病害なく、夜に雨降り昼間は晴れて高温続きの天候に恵まれ、価格が安定して作付けした全部が出荷できました。父ちゃんも「まあまあ良い年」と言葉少なに言っていました。長芋も良いものができていて出荷できない品物が少ないくらいです。

今年で還暦になりましたが、最近たて続けに2回転倒して痛い目にも遭っています。年齢のせいにしたのですが、「気を引き締めて！」と2人の母たちが言ってくれている気がします。そんな風に見えるのですから、やっぱり今年が良い年でした。

家族と過ごす



今井 績彦さん
(下竹田)

山形村に住み始めて2年ほどが経ちますが、今年もコロナ禍で日常もいろいろ制限しなければならず、大変な毎日が続いています。

山形村は静かな場所だと感じており、不思議と気持ちは穏やかに過ごせています。

仕事も忙しい日々が続く時は、なかなか早く家に帰れない日もあり、子どもには寂しい思いをさせてしまう時もありますが、協力し合って家族の笑顔を守ることもできています。

そして今年新しい命も誕生しました。

家族がますます賑やかになり、毎日の子どもたちの成長を楽しみに過ごしています。

コロナ禍だからこそ、家族の時間を大切にしたいと思う気持ちを感じようかな年でした。

コロナが終息することを願うばかりですが、まずは家族の安全を優先に。時期がきたら子どもたちをいろいろな場所に連れて行きたいと思っています。

森の中で展示会



保坂 一彦さん
(清水高原)

枯葉が舞い、森の中に落ち葉が溜まり、あらわになる樹々。冬への助走が始まる11月。四季それぞれに移ろう風情を見せる清水高原別荘地。夫婦で東京からやってきて、森の中の暮らしにドップリ浸かって12年。この地がますます好きになっていきます。

白樺、栗、ウリハダ楓、ハウチワ楓、イタヤ楓、コシアブラ、リョウブ、檀香梅、挙げげていくとキリがない植生の豊かな森。この森の中に住まう幸せ。

8月に開催した『かたち展』は、この豊かな自然と木の温もりを、お裾分けしたい、と企画した展示会です。展示したスプーン、トレーやオブジェは森の樹を材にしました。自然のカタチを活かし、個性あるモノたち。1日だけの展示即売会でしたが新しい出会いがあり、旧交を温める場になりました。

買ってもらえるのは、とても嬉しい。でも、この森の中に来てもらえるなら、ひやかしても良い、と思っていました。清水高原は山形村のオアシスです。

～館報やまがたへの情報提供募集中～
身近な情報・感想をお寄せください

入力フォーム

右のQRコードを読み取ってください。



メール

下記アドレスへメール送信してください。
kanpou@vill.yamagata.nagano.jp

電話

☎0263-98-3155 (山形村公民館)

未だ流行が続く新型コロナウイルスが再会を喜ぶ笑顔や久しぶりの賑わいに包まれていました。

今年はまさに、感染症との共生を図りながら、新たな方法を試すトライの年でした。まだまだ気は緩められませんが、2023年は「ウふふ」と笑顔があふれる平穏な時代になることを祈りながら、前に進んでいきたいですね。

今年も「館報やまがた」をご愛読いただき、ありがとうございます。良いお年をお迎えください。

続・三九郎特集

今年1月号で三九郎の歴史を紹介しました。本号では忘れ去られつつある三九郎の基本的な作り方と、今まで誰一人把握していなかった村内の実施場所を、令和4年の実績を元に調べました。



山形村全87常会 三九郎の場所

※37+5箇所を記録。毎年、変更や統合されることがありますのでご了承ください。

地区	上大池										中大池					小坂										下大池																			
実施場所	A					B					C					D	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	—	P	—	Q													
常会名	豆沢南	豆沢北	青木沢南	青木沢北	中耕地西	中耕地東	久保	堤南	堤北	淀の内	上手	野際	野際東	中村(中大池)	下村東	下村(中大池)	東殿	山口	大日	日向	堂村	清水	本殿上	本殿下	上北沖	下北沖	中原町	中北沖	中嶋	上中原	下中原	小坂台	新町	第一	北畑	仲町	橋爪西	橋爪東	下村(下大池)	中央通	城ヶ沢	西沖			
地区	上竹田										下竹田																																		
実施場所	R	a	—	S					b	T	U	d	V	—	W	X	e	f	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	あ	さ	き	ゆ	め		み													
常会名	唐沢下	原村上	西原	四ッ谷上	四ッ谷西	四ッ谷下	四ッ谷中	四ッ谷東	南原	原村東	中耕地	宮村	殿村	中村(上竹田)	中村東	下本郷	青葉台	新和	本郷東	本郷西	御判形	美の里ヶ丘	唐沢上	神明	荒川	上手村	西下	北村	北中	南中	若葉	北堀	南堀	竹原	新原	新屋	原町	野尻西	野尻東	南竹原	竹田原	中竹原	梨の木	北竹原	三夜塚

※『—』表記は新常会または過去数年開催なし。グレー色の英小文字表記は過去2、3年で開催のあった参考箇所です。



9. 後片付け

火の番をしっかりと行い、燃え尽きたら翌日などに片付けを行う。焼け残った芯棒の切り分け配布を行っている場合もある。



左ページ★1. 中大池(左)・下大池(右) のだるま

だるまを吊るすのではなく、数珠のように繋げてアーチ状にする飾りが有名。壮観である。

あなたの常会はどう作る？

山形村流三九郎の作り方と流れ

基本的な作り方メモ

3の工程は準備作業が多いため、班分けなど役割分担して作業を進めるのが完成への近道です。



1. 芯棒(神木)や竹の切り出し

芯棒は、松、唐松、杉、檜、樅など、常会によっては木の品種が決まっている場合もある。年末にあらかじめ準備しておくことが多い。



2. ものがら集め

子どもたちが各家庭をまわり、ものがら(藁束、豆殻など農産物のガラ)や、お正月飾り(門松、松飾り、注連縄など)、だるま、お札などを集める。



割箸と紐で作っただるまの吊り紐

3-1. だるまの下処理

だるまの下にある重りを外し、笹などに吊るすため紐を通すなど加工を行う。(★1) また、注連飾りの針金なども外す。



3-2. 芯棒(神木)の準備

芯棒にさらに高さを出すため笹付きの竹を結び、炎が燃え上がるように芯棒・竹の周りに藁を括り付ける。笹の部分にだるまをぶら下げるように可能な限り飾る。



3-3. 檜を組む(例1)

中央にだるま付きの芯棒を立てて倒れないように頑丈な檜を組む。中大池の例。シンプルな3点組からガッチリとした小屋のようにするなど、さまざまな組み方がある。



3-3. 檜を組む(例2)

檜の柱は竹で組むことも多い。下大池の例。三九郎は地域活動であるため管轄団体が無い。そのため経験者はぜひ世話を焼いていただき伝統技法の継承を願いたい。



4-1. 飾り付け

組んだ檜の中にものがらを詰める。檜がいっぱいになったら周囲を杉や檜の枝、または笹で覆うことが多い。



4-2. 飾り付け(補足)

常会によっては檜内部に祭壇状のものを作り、そこへお札の類を納めるようにする場合もある。下大池の例。



5. 三九郎完成!

最後に注連縄を繋いでロープ状にしたもので三九郎をぐるぐる巻きにしたり、檜が複数ある場合は間に注連縄を渡したりして仕上げとする。



6. 歌を歌ってお知らせ

三九郎点火前に子どもたちが三九郎の歌を歌って担当の常会を回る。



7. 三九郎に点火

松明か藁束を使って檜に点火する。上竹田四ッ谷では松明を用いる。



8. おだんごを食べる

無病息災や豊作を祈願して、三九郎の熾でだんごや餅を焼いて食べる。

※本企画は作り方の統一化を図る試みではありませんので、その点を何卒ご承知おきください。

山形保育園

今年もなろう原公園や園庭から園児たちが枝や落ち葉を集めてたき火をし、焼き芋会を行いました。

さつま芋を新聞紙で包む時に「美味しくなあれ、美味しくなあれ」と言いながら包む姿はとても可愛かったです。焼き芋はおやつ時間にみんなでお食べました。青空の下、楽しい焼き芋会になりました。



焼き芋会 11月11日(金)

やまのこ保育園

未就園児の親子が遊びにくる『やまのこ広場』の参加者も集まり、にぎやかな雰囲気の中、たき火の準備を行いました。包んださつま芋をアツアツの熾火の中に入れ、焼き上がりを今か今かと楽しみに待つ子どもたち。「焼けたよー」と声がかかると、嬉しそうにホカホカの甘い焼き芋をほおばっていました。今年も園児たちが畑で育てたさつま芋が豊作で、午後のおやつにも美味しく食べました。



健康活動動機づけ講座

11月27日(日)、山形小学校体育館にて、下大池分館主催の『健康活動動機づけ講座』が行われました。今回も松本大学地域健康支援ステーションの方を講師に迎え、春から始めた健康活動の成果を確認する

体力測定を中心に行いました。その後、ストレッチやミニゲームなども織り交ぜ、楽しい時間を過ごしました。



野鳥の巣箱清掃



11月20日(日)、トレーニンゲセンターにて、Yふるさとレンジャー隊(YFR)とおやじ塾が合同で、巣箱の清掃を行いました。巣箱は、YFRが『野鳥』をテーマに活動した昨年度、おやじ塾と作製・設置したもので、7月には野鳥の営巣・繁殖が確認されました。この秋、子育てを終えて巣立ったことから、来年も使ってもらえるようにと清掃しました。

キッチン和っこ

11月19日(土)、下竹田のコミュニティハウス『ふらつと』にて、キッチン和っこ主催による今年度4回目(全5回開催)の手作り料理の振る舞いや子どもたちの交流イベントが行われました。

小学生を中心にさまざまな年齢の子どもたちが参加し、坂野岳人さん(下大池)による小型無線航空機ドローンの操縦体験や話題の



モルツクを楽しみました。山形村産の食材を使ったカレーやさつま芋のサラダも「甘くて美味しい」と好評で、おかわりする子どもたちが続出。キッチン和っこは、食を通して、子どもたちの育ちと居場所作りを支える活動を続けており、「子育て中の家庭にこの活動を知ってもらいたい」と話していました。

と清掃しました。昨年、巣箱作りに参加した6年生の佐野銀士くん(小林地)くん(ともに下大池)は、「やったー!」「生き物の生命の循環を身近に見ることができました」、5年生の宮澤踏さん(上竹田)は「嬉しかった」と話していました。



山すず

あちらこちら 軒先に柿すだれ。晩秋の風物詩であるがいつもより多い。今年も柿のなり年。葉が落ちた柿の木を見て、木に

柿がなつたよ」と幼い娘が言ったことを思い出す。そして、母がこたつにあたってせつせと柿をむいていた姿も。たまにごまのある柿がある。甘柿だよと皮をむいてくれた。今は亡き母を懐かしみ、夜なべに柿の皮を剥く。昨年までは甘柿だったのに今年は渋い。いつまでたつても渋い。甘柿でもその年の気候で渋いまらしい。そこで一念発起して干し柿を作ることにした。古くから「和菓子の甘さは干し柿をもつて最上とする」といわれる。干し柿の魅力は、ねっとりとした食感と濃厚な甘さである。欲を言えば真っ白に仕上げたい。その白い粉は中から染み出したブドウ糖が結晶したもの。干した柿の収穫時期も難しい。干し柿作りは自然環境の力が大きく、昼夜の寒暖差で乾燥と加湿を繰り返して熟成する。ところが地球温暖化や気候変動などで異常が生じ、産地では機械乾燥が導入されているとか。果たして、正月に白い粉のふいた干し柿を食べることができるだろうか。

シフォンケーキを焼こう！講座

11月18日(金)、トレーニングセンターにて、東海林とも子さん(塩尻ペンキカフェ)を講師に招いて『シフォンケーキを焼こう！講座』の初回(全4回開催)が行われました。最初にレシピの特徴について「卵白と卵黄は同割で薄力粉より強力粉の方がしつとりします。オーブンと仲良くなるのが美味しいへの近道」と説明がありました。調理が始まると3つのグループに分かれ、ケーキ作りを楽しみました。卵白の泡立てに苦労しながらも粉を混ぜ合わせてオーブンへ。中を覗くと膨らみ始め、次第に甘い香りが部屋中を包み込みました。その後、講師の用意したシフォンケーキを試食しました。参加した小学生からは「家でやっている方法と違ってビックリした。教わったことを活かして家でも美味しく作りたい」と感想が聞かれました。



ドライフラワーリースを作ろう！講座

11月19日(土)、トレーニングセンターにて、中川みどりさん(小坂)を講師に招いて『ドライフラワーリースを作ろう！講座』の初回(全4回開催)が行われました。自然の素材を活かしたリース作りを行う中川さんは、「同じ材料を使っても違う風合いに仕上げるのが面白いです」とその魅力を紹介し、自宅で栽培し、乾燥させた花材(千日紅、ヘリクリサムなど)やヒバ、松ぼっくりを使った直径20cm程のクリスマスリースの作り方を丁寧に説明していました。初めて体験する小学生の親子や女性の参加者がほとんどでしたが、思い思いの花材をあしらったリースはどれも表情豊かで素敵な作品に仕上がりました。



山形村史談会 高遠の史跡を訪ねる

10月29日(土)、山形村史談会の村外探訪が行われ、山形村の歴史と繋がりのある高遠城址や伊那谷の史跡をバスで巡りました。江戸時代前期に高遠藩の領地であった山形村。村内の道祖神や清水寺の石像には高遠石工の名前が刻まれているものもあり、縁が深いことがうかがい知れます。

山形村を統治していた福与城址や中村太八郎に影響を与えたことで知られる中村弥六を輩出した進徳館など関連する名所を散策した参加者たち。高遠町歴史博物館では、名工・守屋貞治が手掛けた延命地藏菩薩を拝観し、優れた石工の技術を間近で体感しました。

企画した高野嘉敬会長は「山形村の歴史を知る上で重要な場所を巡れた」と話し、今後の活動に向けての思いを膨らませています。



野沢菜収穫体験

11月25日(金)から計5日間、山形村観光協会主催の野沢菜収穫体験が行われました。取材に訪ねた11月27日(日)は、天候にも恵まれ、太陽光を浴びた野沢菜が元気よく一面に茂っていました。

参加者からは「毎年楽しみにしています。去年ほど太くなくてちょうど良いので、塩分が浸透しやすく水がすぐにあがりそう♪」と収穫をしながら切り漬け、本漬け(長漬け)を楽しみました。



伊那市立高遠町歴史博物館に面する高遠湖を背に

平林 昌廣さん社会教育功労者表彰受賞

山形村学校支援地域本部コーディネーターや、教育委員として活動されている平林昌廣さん(上大池)が、令和4年度社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞されました。このほど、授賞式が文部科学省で開催されましたが、コロナ禍の影響もありオンラインで式に参加され、表彰状及び銀杯の伝達が11月22日(火)、トレーニングセンターにて行われました。



おめでた(字・親)

波多野琳奈・幼奈・上竹田

平林 絃・風 壮太・上竹田

おくやみ

上條 良之・99歳・上竹田
宮澤 和子・94歳・上竹田

号 西暦月

701 2014. 9

704 12

706 2015. 2

707

711

715

716

718 2016. 2

733 2017. 5

740

743

747

2018. 3

749

下竹田共有山鳥居建て替え



・開村140周年記念夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会開催(8/24)
予想を上回る1700人の参加者による壮大な体操会になった。
・クマの出没多発(9~11月)
この年9月から11月の間に目撃情報が51件あった。
登下校時間帯にパトロールが実施された。

・第5回全国公民館報コンクール入賞!(12/17)
主催者の全国公民館連合のコメント
「六十年以上続いている公民館報は全国でも珍しい」

・山形小学校 コミュニティ・スクールに指定
地域とともにある学校づくりへ『学校運営協議会』設置。

・山形村プレミアム商品券発売(6/26)

・上竹田分団創立100周年記念式典(11/15)

・鉢盛中学校50周年記念式典(11/21)

・自然の驚異 清水高原を雨水が襲う!!(1/29)
1月29日から降り出した雨が凍り付き、その重みで倒れた樹木によって、村道と電線・電話線が分断され、清水高原は39人の方が孤立する事態となった。

・百瀬久村長から本庄利昭村長に交代(3/17)
館報5月号で本庄村長にインタビューを行った。

「その昔、山形村は水の問題で大変苦労した歴史があり、皆で知恵を出し合って解決してきました。今でも底力を持った村民が多い村だと思えます。子どもたちには、自然豊かなこの村で暮らす楽しさを知ってほしいですね。山形村に住むことに生きがいを感じられる村づくりを村民の皆さまと共に進めたいと思います。」(本庄村長)

・上大池分団創立100周年記念式典(11/26)

・地域おこし協力隊創設第1号は坂野岳人さん

・下竹田共有山 鳥居建て替え(6/17)

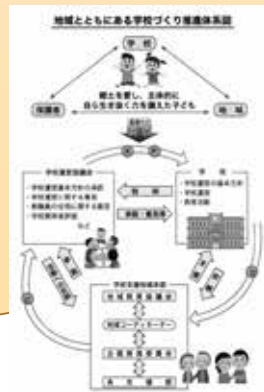
・給食に懸ける思いが認められた。(9/10)
平成30年度長野県学校保健・安全・給食大会が開催され、山形小学校が『長野県学校給食優良学校等表彰』を受賞した。



鉢盛中学校開校五十周年



上大池分団 創立100周年記念式典



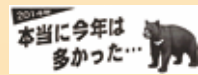
コミュニティスクールの仕組み



上竹田分団 創立100周年記念式典



コンクール入賞時の公民館三役・編集部員



ラジオ体操



700号当時 編集部員 上條 雄嗣さん (中大池)

シン・カ

『館報やまがた』800号記念号の発行、誠におめでとうございませう。平成26年4月から6年間、編集部員として館報の作成に携わらせていただきました。

したが、部員1年目の8月が700号の記念号発行でした。あれから更に100号を積み重ねたわけですが、月日の経過の早さを改めて実感するものです。700号から800号の間には、元号も平成から令和に変わり、新型コロナウイルスの流行により、多くの行事が中止になるなど、大きな転換期を経験することになりました。こうした中、社会構造の変化のスピードは、我々が想像している以上に速く、現状維持は後退に等しい世の中となっています。SNS全盛期の今日、館報やまがた公民館活動も形態を『新化』すると共に、村の発行する広報との違いを考え内容も『深化』することで、読み手である村民からの『真価』を問われながら、存在価値を更に高めて欲しいと願います。

コロナの感染が収束した折には、山形じゃんずらや、村民運動会が盛大に行われ、それらの特集紙面で飾られた館報を早く見たいですね。そして、次の900号更に大台の1000号の記念号発行を楽しみに、自らが館報と共に『進化』していきたいと思えます。

かがやき 輝

館報やまがた701号から800号までの歩み

このページでは、701号(2014年9月)～800号(2022年12月)までの村内の主な出来事をピックアップしてまとめました。

タイトル『輝』は、山形村に関わる全ての人たちが、それぞれの持てる力を発揮して、手に手を携えてみんなで輝いていこうという願いを込めて名付けました。

これまでも、これからも、地域と共に輝く『館報やまがた』でありたいと思います。



2000年4月～2001年3月 生まれの皆さんの 誌上成人式

788 785 784

9
・大雨災害

12
・『葬儀のお知らせ』終了を考える
2021年8月に終了した『朝のお知らせ』『葬儀のお知らせ』について、同年12月号で村民と役場の方の意見をまとめた特集を組んだ。

8
・2020成人式 中止が決定(2020.8)
館報で『誌上成人式』の企画を組んでお祝いした。

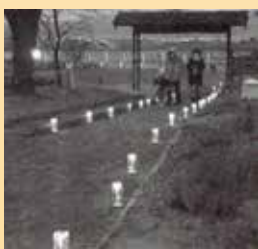
3
・信州印刷株式会社『館報やまがた』の印刷業務を終了
創刊時からの付き合い合いだった信州印刷株式会社が事業を終えることとなった。

2
・アイスキャンドル大作戦
公民館が企画し、多くの人がミラ・フード館南側で幻想的な光を楽しんだ。

12
・ふるさと伝承館 お別れ見学会開催(12/10・11)
伝承館は老朽化のため2020年度内に取り壊された。

779 778 776 774 773 772 769

2021. 2



アイスキャンドル大作戦



ふるさと伝承館

4
・『館報やまがた』電子書籍版スタート
山形村のHPから閲覧できる。

5
・768・769合併号

8
・770・771・772合併号

9
・わくわくチケット配布

10
・第70回総合文化祭中止
『ちっちゃな発表会』として小規模に開催された。(11/16～22)



館報号外

号外 2020. 4

2019. 1

・山形村初 県宝指定!!
ふるさと伝承館所蔵の縄文土器5点が長野県宝『信州の特色ある縄文土器』に指定された。

・号外を発行(4/24)
新型コロナウイルス感染症の流行によって、取材・企画校正会議が開催できないため、号外(A4両面)の発行となった。



深鉢型土器 (殿村遺跡出土)

縄文土器 県宝指定



有孔罎型土器 (下原遺跡出土)

約手土器

館報800号に寄せて



公民館長 百瀬 純雄 (下田)

館長2期4年目になるこの12月号が、800号として発行できたことを大変うれしく思います。
最初の1年目は館長として戸惑いもありましたが、

当時の上條哲也主事ほか・事務方の献身的な活動のおかげで公民館が潤滑に回ったと思います。今思えば、村民運動会が台風の影響を受け中止になった以外は、想像以上にできたと思っています。

2年目は自分の色を出した活動ができると思っていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、公民館活動の自粛・中止・延期などで、ほとんど動けない日々が続きました。館報も記事が集まらない事態になり、合併号発行で何とか形をとることができました。その後もコロナ禍の影響を受けていますが、編集部員の献身的な活動・一体感で毎月の発行ができています。

これからの公民館は『Withコロナ』で大きなイベントは難しいですが、村民に寄り添った魅力的な公民館にしたいと思っています。子どもたちや高齢者が集い・学び・結ぶ機会を作るため、他の団体との共催を模索し、少しでも魅力的な輝きのある企画を作りたいと思います。村民の皆さんの参加をお待ちしています。

800号から未来にむけて

『館報やまがた』編集部長 岡上 真梨

「取材を通して村民目線の歴史を作る」創刊から現在まで村民の手によって作られてきた館報には、場所や時間を超えた人の繋がりを感じさせてくれます。

ページをめくれば身近な場所や顔馴染みの人が載っている館報。私自身も過去に登場させていただき、めぐり巡って作り手の立場になってからは、館報に携わってきた先輩方の偉業やチームで誌面を作る楽しさに魅せられてきました。

冒頭の言葉は、村民との対話を大切にしてきた先輩方の言葉です。「何を思い、どんな活動をしたか」と直接会って話を聞き、発信していくことは、館報だからこそできる役割であり、その軌跡が多様性を尊重する現在にも繋がっていると感じられます。長い歴史のほんの一部ですが、今の『今』を伝えられることは、私たち編集部員にとってかけがえない体験です。

節目の月号は、未来に残したい山形村の姿を願って編集しました。地域の輪や伝統行事の三九郎、そして村民の皆さまと歩んできた館報の歴史を振り返りました。

これまで多くの出会いがあり、温かな厚意に支えられたことに心からの感謝とともに今後も皆さまと一緒に館報を作っていきたいと願います。

私たちが館報を作っています



副館長
前田 祐司
(下大池)

としのせいかわせて来たな食もほそくなつたな歯がぬけたなまあいいか。ベルトしてマスクしていれば。



副館長
中村 よしみ
(上大池)

館報は熱い！編集部員が走り回りニュースを伝える。この4年間は館報を端から端まで目を通した。800号を迎えた館報。プラボー！と伝えたい。



館長
百瀬 純雄
(下竹田)

私の趣味
新劇の芝居を見ること。『まつもと市民劇場』という芝居の鑑賞団体があり、年6本の作品を観ることができます。生の芝居を観ると元気が出ます。



丸山 智彦
(下竹田)

相棒のカヤックと行く海釣りは毎回ワクワクドキドキの冒険アドベンチャー。生きているだけで丸儲け。



岡上 真梨
(小坂)

移住して7年。出産、子育て、サークル活動、館報編集部と充実した時間でした。子ども連れの取材も温かく迎えて下さり、感謝です！



大塩 和道
(下大池)

バイクで駆け抜けるのは気持ちがいいですが、歳を重ねるにつれ、時の流れも駆け抜けている感じがするこの頃。でも、のんびりが一番！



中村 辰弘
(上大池)

亡き祖父も館報に力を注いでいたと聞きました。めぐり巡って今私が編集部員を努めていること、そして、区切りの号に関われたことは感慨深く思います。



塩原 忍
(中大池)

人と話すのが大好き。取材そつちのけでお喋りするこもしばしば。寒い冬ですが、これからの公民館で、あったかい冬物語を作りましょう！



中川 拓也
(小坂)

館報編集部に入る前はどうかやって館報を作っているのだろうか？なんて考えもしませんでした。企画・校正会議の度に新鮮な感情が湧いてきます。



事務局
齊藤 周治
(下竹田)

モルックで始まった2022年も残りわずか。老若男女問わず盛り上がりつつ、ぜひやってみませんか？



清原 義雄
(上竹田)

帰郷7年目、4月に館報編集部入り、8月に『還暦座談会』ができたことが大きな収穫です。ご協力くださった同期生・級友に感謝します。



荻上 慶
(中大池)

4月から編集部員になった荻上です。今のお気に入りにはウエブラジオと始めたばかりのツイッターです。800号の節目に関われたことを光栄に思います。

山形村公民館報『館報やまがた』No.800 12月号 令和4年12月発行
編集と発行／長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷／カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

